

# 梅雨前に収穫できる小麦新品種 「イワイノダイチ」の栽培法

農産研究所

## 1 背景、目的

高品質の小麦を安定的に供給するためには、収穫直前の雨害を回避できる栽培技術の開発が最も重要です。従来の小麦の成熟期は6月上旬であり、年によっては収穫期が梅雨と重なるため、病害粒や穂発芽粒の発生により作柄や品質を大きく損なうことがあります。

そこで、5月中に収穫可能で、製めん適性が優れる小麦新品種「イワイノダイチ」の栽培技術を確立しました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) 秋播型早生小麦「イワイノダイチ」は、11月上旬に播種することによって5月末に収穫が可能で、梅雨の被害を最小限に止めることができます。
- 2) 播種適期の幅が広く11月上旬から下旬までが適期で、早播による幼穂凍死が極めて少なく、耐倒伏性及び耐穂発芽性も優れています。
- 3) 容積重及び千粒重が重く多収で、穀粒の外観品質は良好です。
- 4) 小麦粉の品質評価において重要なフォーリングナンバー値（300秒以上）は、高く安定しています。さらに、製粉歩留は高く、粉の色は良好で、製めん適性は優れています。
- 5) 11月上旬の早播栽培において、収量や製粉性が安定する播種量及び窒素施用量は、それぞれ10a当たり3～5kg（苗立数50～100本/m<sup>2</sup>）、10a当たり基肥5kg＋第1回追肥4kg＋第2回追肥2kgです。

### 3 主要なデータなど

表1 早播と標準播における生育、収量、製粉および製めん適性

播種期	品種名	成熟期	倒伏程度	子実重	千粒重	容積重	検査等級	製粉歩留	製めん適性
		月・日		kg/a	g	g/L		%	合計点
11. 5	イワイノダイチ	5.28	1.2	46.8	41.4	832	2.8	70.4	71.1
11.25	イワイノダイチ	6. 1	0.4	51.3	41.2	834	2.4	71.9	73.6
	農林61号	6. 7	2.9	44.7	38.4	834	3.0	68.0	74.3

注) 平成8～12年の5年平均。製粉歩留・製めん適性は平成11年。  
 施肥量(基肥+1追+2追)：5+4+2(Nkg/10a)。  
 障害程度：0(無)～5(甚)の6段階。  
 検査等級は1(1等ノ上)～6(2等ノ下)の6段階。

表2 早播における播種量と生育、収量

播種量	成熟期	倒伏程度	子実重	容積重
本/m <sup>2</sup>	月・日		kg/a	g/L
50	5.26	1.3	48.2	830
100	5.26	1.5	46.7	832
150	5.26	3.0	46.3	820

注) 品種：イワイノダイチ(豊前分場産)。  
 平成8～10年の平均。  
 播種期：11月5日。  
 施肥量(基肥+1追+2追)：  
 : 5+4+2(Nkg/10a)。



図1 成熟期の株標本  
 左：イワイノダイチ  
 右：農林61号

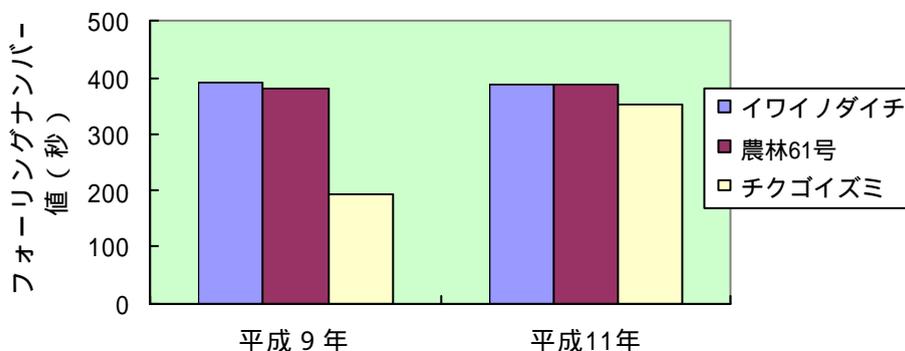


図2 早播における品種・生産年別のフォーリングナンバー値  
 注) 平成9年は収穫直前に降雨あり、平成11年の天候は良好。